

地質ニュース

昭和 60 年 6 月

第 370 号

1985

昭和60年度の地質調査所の研究—経常研究—	企画室	6
三宅島噴火から1年	須藤茂	14
日本のホウ素資源と水溶性ホウ素鉱床—その1—	福田理	28
経済地理メモ—社会主義国編—⑬	地質相談所	45
キューバ		
ノジュール礫の供給源を鹿島灘海岸に探る	磯部一洋 池原研 川幡穂高	48
リオデジャネイロの鉱物・岩石博物館	ペローラM.G. ミランダ 平野英雄	56
月の山 ルーウェンゾリの切手	P. Q.	59
お知らせ	企画室	13
茶内原野 CHANAIGENYA	嵯峨山 積 松下勝秀 山岸宏光	60

目 録

中国・廬山に第四紀氷河の痕跡をみる

中嶋輝允

編集 地質調査所

発行 株式会社 実業公報社

表紙の写真

7月号予定目次

震旦系（先カンブリア紀末期）が急崖をなす中国・廬山の峰々

廬山と言えば、年輩の人なら山麓の町九江とともにその名を懐かしく思い出すに違いない。戦前九江には海軍の基地があったし、映画“廬山の石”の舞台としてよく知られていた。ここに示したのがその廬山の石である。今また廬山には中国人観光客に混って年輩の日本人旅行者の姿が見られる。彼らにとっては昔の思い出を迎えるセンチメンタルジャーニーなのである。

中国西部に連なる青蔵（チベット）高原の山々に比べるといささか低い気もするが、北には中国第一の大河揚子江（長江）を東には紺碧の水を湛えた中国第一の淡水湖鄱陽湖を配し堂々たる景観である。廬山はまた地質の研究でもゆかりのある地である。揚子プラットフォームの基盤岩やその上の被覆層が良く露出しているからである。なかでも震旦系はとくに有名で、廬山は中国先カンブリア系の研究に欠くことのできない場所となっている。

（文・撮影：中嶋輝允）

地質調査所初期の地磁気観測

伊豆三宅島の貝類を1983年噴火に知る

破碎岩盤の水理解析に関する話題

東南アフリカ事情(1)

日本のホウ素資源と水溶性ホウ素鉱床—その2

地質調査所所蔵の本邦産白亜紀化石